

令和5年度第4回FD研修会・意見交換会 教育分野での「地域創生」へ参加して

家政教育講座・竹下浩子

1. 報告会の概要

2023年10月12日（木）14:30から16:00まで教育学部2号館1階103教室にて、令和5年度第4回FD研修会・意見交換会が開催された。このFD研修会・意見交換会は今年度は2ヶ月に1回のペースで開催されており、第4回目のテーマ内容は、教育分野での「地域創生」であった。

2. 報告内容

内容は、以下の通りである。

(1) 佐藤栄治先生からの話題提供

- ・愛媛県の高校の現状
- ・愛媛県下の高校が行っている地域連携の取り組み

(2) 藤原一弘先生からの話題提供

- ・来年度から新設される「地域創生教育カリキュラム概論」や実習などについて
- ・地域創生教育WGの進捗状況

(3) グループ協議

- ・話題提供の内容に対する質問
- ・大学入試における地域枠
- ・その他

はじめに、佐藤栄治先生からの話題提供では、今後の愛媛県内の高校進学者数の推移が示され、四国地方の厳しい少子化問題の厳しい現状を目の当たりにした。また、愛媛県内の高等学校の統廃合の計画案についても説明があった。愛媛県教育委員会は全日制の県立学校55校を5年後までに統合するとして県立学校振興計画案を公表している。計画案では全日制と定時制・通信制の計16高校が統合・改編の対象となっている。愛媛県県立学校振興計画検討委員会が令和4年6月22日に発表した「愛媛県県立学校振興計

画策定の指針について（報告書）」では、平成2年度から県立学校の在籍生徒数が約3万人減少していること、1校1学年あたりの学級数が4割減少していることが統廃合の背景にあることがわかった。

次に、藤原一弘先生からの話題提供では、来年度から新設される「地域創生教育カリキュラム概論」や実習などについての説明があった。「地域創生教育カリキュラム概論」の実施に向けては、地域創生教育ワーキンググループが昨年度より立ち上げられ、来年度からの実施に向けて、実習先や実習内容についての協議が行われている。ワーキンググループでは、質の高い教員を育成するために、各地域の教育委員会や学校と連携し、地域をフィールドにした新たな実習科目や授業科目を創設することで、教員養成学部としての地域貢献を果たしつつ、地元を愛し、子どもたちのモデルとなるような教育人材を育成目指したカリキュラムの検討を重ねている。

グループ協議では、この新カリキュラムについて話題にのぼり、実習を実施する上での学生の経済的な負担や教員の業務負担についての課題が挙げられた。実際の実習をする際に必要な機器・機材・教材の準備が必要であり、そのため助成金や研究費の獲得が必須であることがわかった。

本事業は、全国で喫緊の課題となっている少子化や地域の学校統廃合と廃校の問題など持続可能な教員養成の構築を両立させ、質の高い教員養成の確保を地方大学がどのように担っていくかのモデルケースとして位置づけることができる。グループワーキングのメンバーとして、先進的事例となるようなカリキュラムを構築していきたい。